



白瀧神社

白瀧神社

場所 = 川内町五丁目 3288

見学 = 随時可能※社殿、その他の建物は外観のみ見学可能

駐車場 = 有り

問い合わせ = 文化財保護課文化財保護係 (☎ 内線 622)

日本遺産とは 地域の歴史的の魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語る物語と、それを構成する文化財を「日本遺産」として文化庁が認定したものです。

地域に伝わる伝承

参道の石段を登って境内に入ると社殿に向かって左側には、耳をあてると機音が聞こえたという大岩「降臨石」や樹齢300年以上とも伝えられる市指定天然記念物「白瀧神社のケヤキ」があります。

七夕の織姫になぞらえ 旧暦の七夕には祭礼

白瀧姫を機の神として知られる七夕の織姫になぞらえ、毎年8月7日頃に、境内で市指定無形民俗文化財「白瀧神社太々神楽」が奉納されます。

織物技術を伝えた 白瀧姫を祭った神社

都から桐生に下ってきたと伝わる白瀧姫は、当時、桐生にはなかった新しい織物技術を伝えたといわれています。その白瀧姫を機神として、祭る神社が白瀧神社です。

白瀧姫伝説を広めた桐生織

第47代の天皇(758年~764年)の頃、朝廷の官女だった白瀧姫は、桐生から朝廷に奉公に行っていた山田某と知り合い、この男の妻となりました。白瀧姫は、夫と共に桐生に下り、里人に機織りを教えました。この姫を機神として祭り、天の織女星(七夕の織姫)になぞらえ、(旧暦の)7月7日に祭礼を行うようになりました。



白瀧姫 (『機神白瀧姫御神影並御伝記』)

今に伝わる、この織姫伝説は、江戸時代中頃に書かれた『機神白瀧姫御神影並御伝記』により確立したといわれています。桐生新町に住んでいた新居甚兵衛がこの伝記と白瀧姫の画の摺り物を、桐生織の反物に巻いて売ったことから、白瀧姫伝説が広く知られるようになりました。

今月の表紙

5月7日から桐生新町重要伝統的建造物群保存地区内にある13か所の伝統的建造物に案内表示板を設置しました。表示板にある2次元バーコードなどを読み込むと多言語で詳しい説明をスマートフォンなどの端末に表示させることができます。

人口と世帯

(4月30日現在)

人口	116,197人 (-119人)
男	55,937人 (-61人)
女	60,260人 (-58人)
世帯	49,919世帯 (+48世帯)

( )内は前月比

今月の納税

市民税・県民税…第1期

6月30日(木)が納期限です

コンビニエンスストアや銀行などのペイジー対応ATMからも納付可能です。口座振替を利用している人は、預貯金残高の御確認をお願いします。

広告